

平成27年度 農村集落活性化 支援事業 事例集



令和3年3月
農林水産省

趣 旨

農村地域においては、人口の減少・高齢化が都市に先駆けて進行し、単独で農地や農業用施設を維持・管理することが困難な集落が増加しています。

こうした集落が存続していくためには、地域の将来像を策定するとともに、集落間の連携によって互いの労働力を補完するなど地域ぐるみの組織化を図る必要があります。

農村集落活性化支援事業（以下、本事業）は、このような状況を踏まえ、地域住民が主体となった将来ビジョンづくりや、集落営農組織等を活用した集落間のネットワーク化を支援するものです。

本事業では、平成27年度に66地区が本事業で採択されました。各地区は、住民が主体となった地域の将来ビジョンの作成や地域全体の維持・活性化を図るための体制構築等に取り組むことにより、集落のネットワーク化等を通じた農村地域の維持・活性化を目指してきました。

今般、平成27年度に採択された66地区について、5年間の事業実施期間を経て、令和元年度に事業が完了しました。

各地区の取組内容を振り返ると、多目的な拠点の存在、多様な組織との連携、地域住民の支援、地域の魅力発信、都市農村交流の取組、若者に対する支援、事業継続への組織確立など、多種多様な取組が行われており、これらは農村地域における課題解決のヒントになるのではないかと考えています。

このため、今後、同様の課題を抱える地域の課題解決のための参考となるよう、本事業における優良事例を事例集としてとりまとめました。

本事例集を通じて地域活性化に資する取組の横展開を推進することにより、農村地域の課題解決のきっかけを作れることを期待しています。

お問合せ先

農村振興局農村政策部都市農村交流課
担当：藤田、根井
代表：03-3502-8111（内線5451）
ダイヤルイン：03-3502-5946

目 次

No.	事業実施主体名	多目的 な拠点 の存在	多様な 組織と の連携	地元住民 の支援	地域の魅 力発信	都市農 村交流 の取組	若者へ の支援	事業継続 への組織 確立	頁
1	上美生ほしぞらプラン協議会	●	●	●	—	●	●	—	1
2	南弟子屈地域活性化協議会	●	●	—	●	●	●	—	3
3	小友町農村集落活性化協議会	—	●	—	●	—	—	●	5
4	本宮市農村集落活性化協議会	—	●	—	●	—	●	●	7
5	富士山集落活性化協議会	—	●	●	●	—	●	—	9
6	三・両地域協議会	—	●	—	●	●	—	—	11
7	櫛池農業振興会	●	●	●	●	●	—	●	13
8	川谷もより協議会	—	—	●	●	●	—	—	15
9	能登島地域づくり協議会	●	—	●	—	●	—	—	17
10	上石津未来を紡ぐ協議会	●	—	●	●	—	●	—	19
11	加子母むらづくり協議会	—	●	—	●	●	—	—	21
12	東草野まちづくり懇話会	●	●	—	●	●	●	—	23
13	大宮南地域里力再生協議会	●	●	●	●	●	●	—	25
14	鮎原下を中心とした相原地区活性化協議会	—	●	—	●	●	—	—	27
15	中和地域集落振興協議会	●	—	—	●	●	●	—	29
16	川西地区郷づくり協議会	●	—	●	●	—	—	—	31
17	本山町農村集落活性化協議会	●	—	—	●	●	—	—	33
18	三原村集落活性化協議会	●	●	●	●	●	—	—	35
19	はさみ東地域集落活性化協議会	●	●	●	●	●	—	—	37
20	五ヶ瀬山学校推進協議会	—	●	●	●	●	●	—	39



北海道芽室町

取組概要

- 地域住民が主体となって、自らの地域の課題を発掘し、地域資源を活用して課題を解決していくことにより、住み続けたい・住み続けられる地域を作り上げている。
- 地域の魅力を発信し、都市部から移住者等が訪れたい地域を目指している。



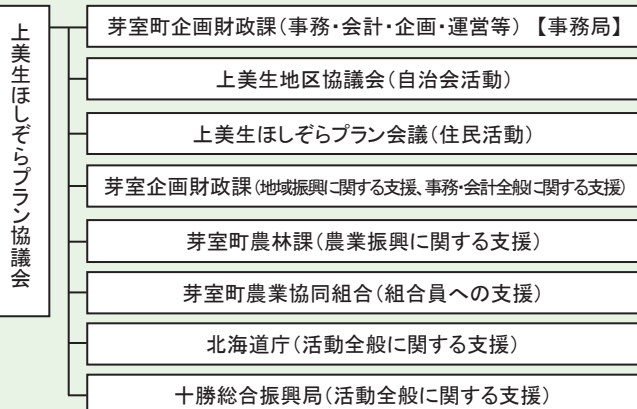
地域の将来像づくり（ワークショップ）

地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 農協の合理化に伴い、住民生活に必要な店舗の運営撤退が示唆
- 芽室町市街地から遠く、バスなどの足の確保が必須
- 高齢者は除雪の負担が大きい
- 直売所までの距離が遠い

体制図



課題に対する主な取組

高齢者に対する除雪支援

- 地域住民による「上美生ほしぞら除雪隊」を結成。地域ボランティアによる除雪及び排雪を実施



- 地域住民による除雪のボランティア体制を構築

地域住民の足の確保

- 高校生の通学や高齢者のデマンドバス運行の実証実験を実施
- 自立した事業とするため、NPOと連携



- NPOとの連携により、令和2年度から事業化

地元商店内に直売コーナー開設

- 地域で運営する商店内に直売コーナーを開設し、農家が農産物を出荷
- 子育て世代や高齢者の交流の場となる拠点形成



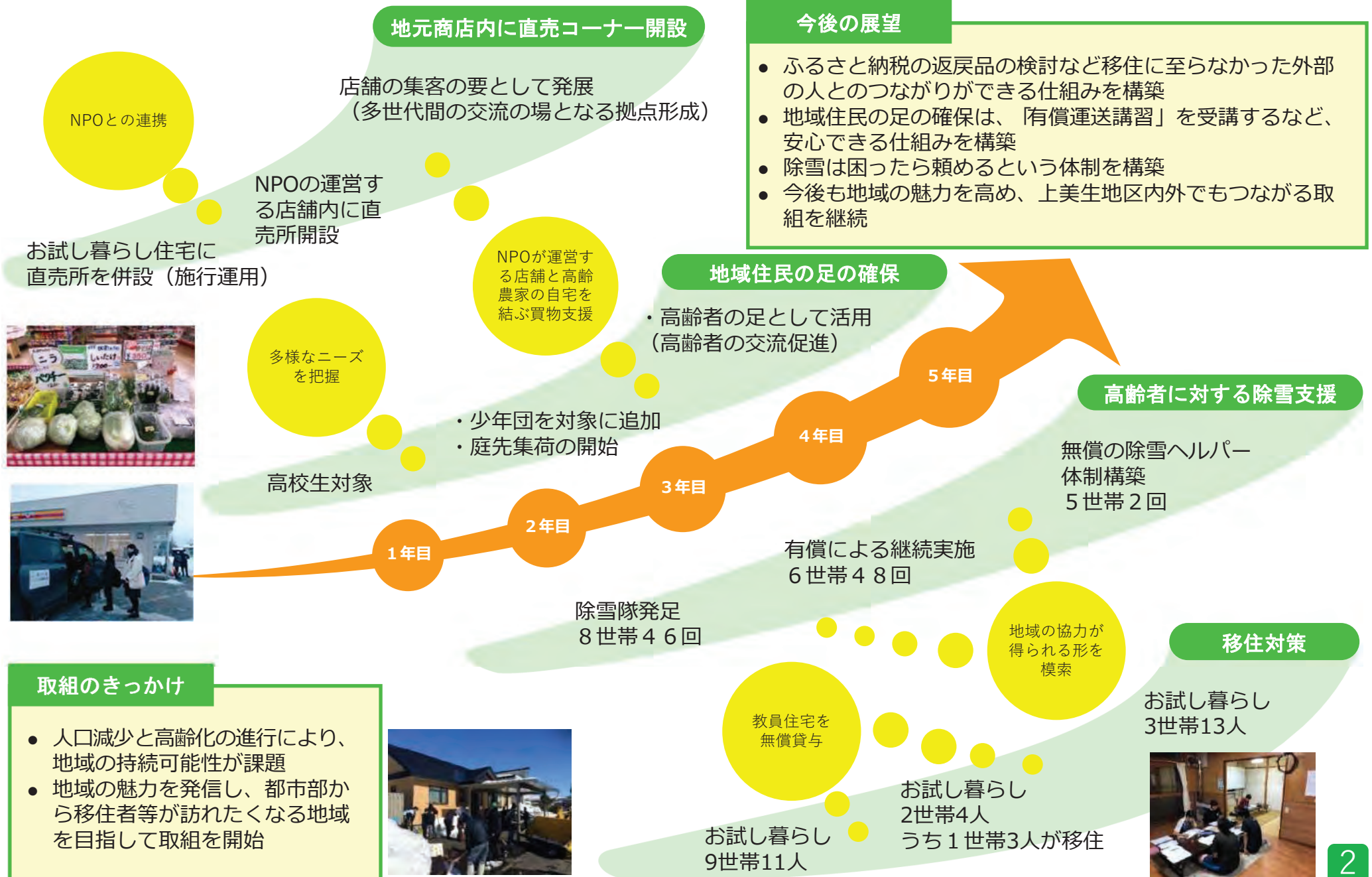
- 地元農家が収穫した野菜の販路拡大
- 直売コーナーが人気となり、多世代間の交流の場となる拠点を形成

移住対策

- 人口減少対策として、移住につながるお試し暮らしを実施



- 14世帯がお試し暮らしに参加。うち1世帯が移住





北海道弟子屈町

取組概要

- 「人が集まり集う 町の玄関口 南弟子屈」の達成に向けた取組を具体化するとともに、取組実施主体の組織化、取組の事業化を図っている。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

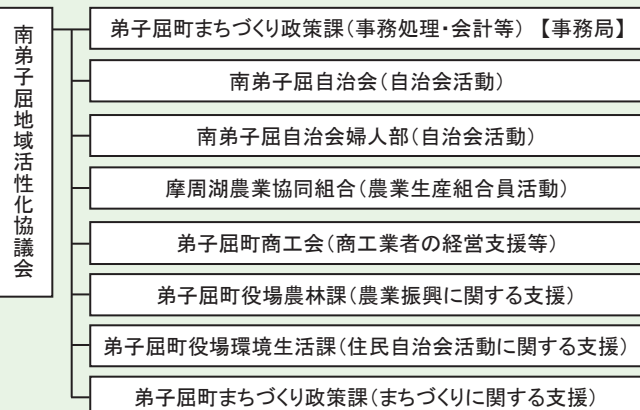


地区の現状・課題

人口減少が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 酪農業の大規模経営化や、酪農事業者の後継者不足などより、人口減少が更に加速
- 地域コミュニティの中心となっていた小学校も閉鎖

体制図



課題に対する主な取組

ライダーズハウスプロジェクト

- ライダーハウス「旅人宿 昭栄」を開業



- 交流人口は確実に増加し、住民と宿泊客の交流促進

酪農体験プロジェクト

- 酪農体験を通じて魅力を伝えるために活動を実施



- 交流人口の増加や地域の魅力発信に貢献

特産品プロジェクト

- 地元の農産物を使用したパン販売を実施
- 酪農と連携した、乳製品の製造を試行



- 地元食材の消費拡大や食材の可能性拡大に貢献（年間約2,500個販売）

地域コミュニティの拠点形成

- 廃校になった小学校の空き教室の開放や校舎内でのコミュニティカフェを開設



- 空き教室でのサークル活動により交流促進
- コミュニティカフェを地域の拠点として運用

2 【取組のプロセス】



岩手県遠野市



取組概要

- 大規模園芸団地の整備に資する栽培試験及び地域資源を活かした6次化商品の開発を行っている。
- 農を軸とした小友町の活性化に係る体制構築及び実践活動に取り組んでいる。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

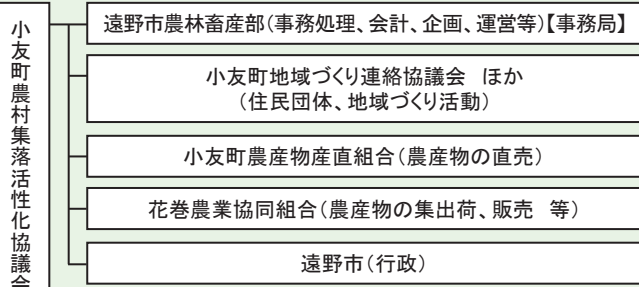


地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 農業の担い手の確保
- 集落営農の組織化及び活性化
- 耕作放棄地対策

体制図



課題に対する主な取組

企業と連携した試験栽培

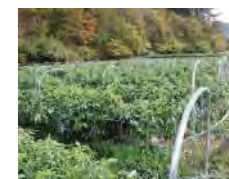
- ロート製菓との契約により薬草の試験栽培を実施



- 企業との連携を通じた大規模園芸団地の整備に向け、体制を整備

重点品目野菜の栽培

- 堆肥を活用したピーマン及びホウレンソウの栽培を実施



- 露地ピーマンに特化した形で生産基盤を強化、安定した出荷体制を構築

集落営農のモデル化

- 地域農業の担い手の確保や集落営農の組織化や活性化を促進



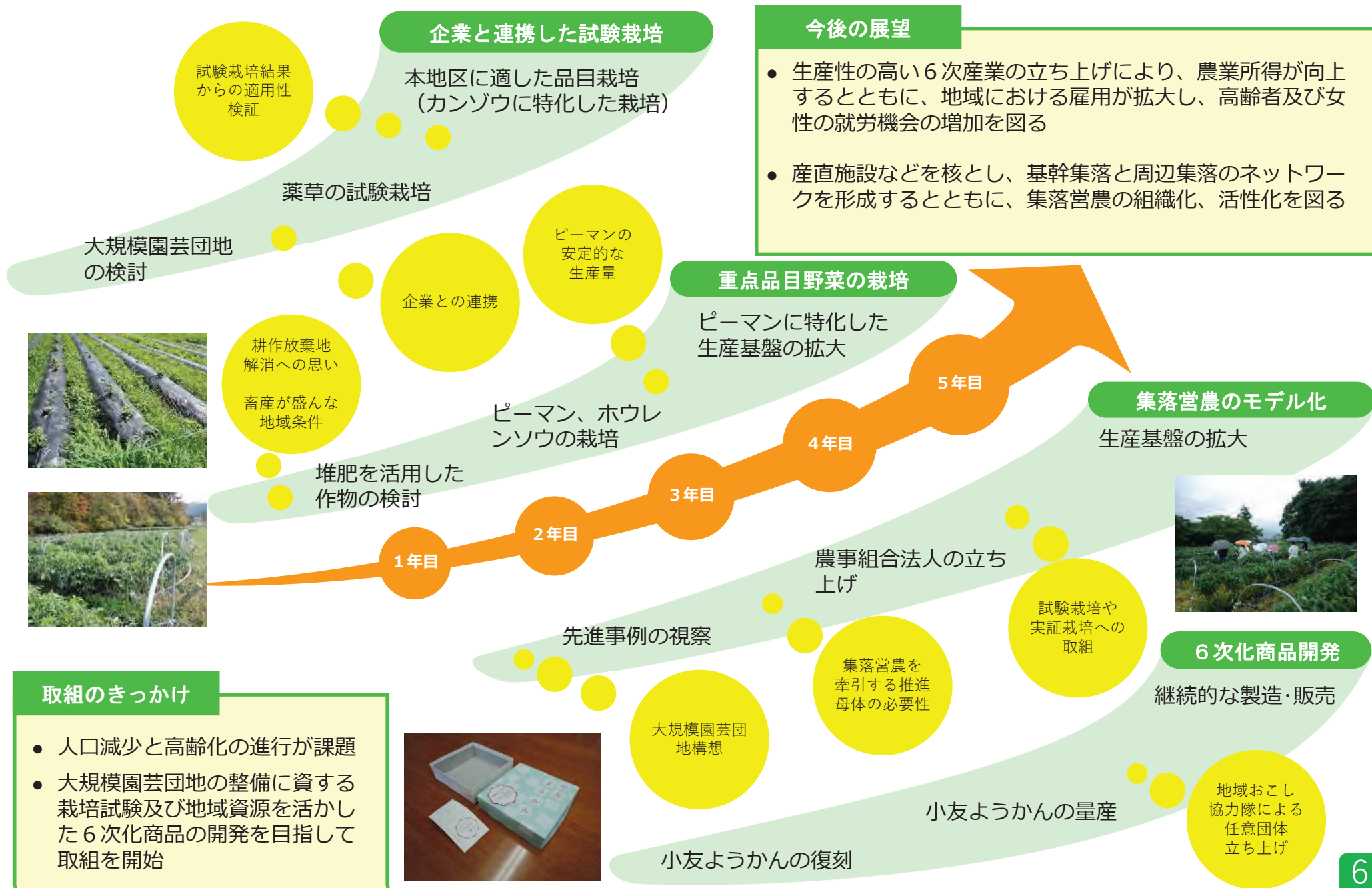
- 平成28年度に農事組合法人を設立し、薬草の試験栽培、耕畜連携による軽量野菜の栽培を担う組織として機能

6次化商品開発

- 地域おこし協力隊と小友町の産直組合が連携し、6次化商品を開発



- 小友地域の伝統菓子の「小友ようかん」を復刻・販売





取組概要

- 地域特産品づくりによる地域活動の活性化、都市部商店街やデパート等の拠点における農産物や地域特産品の安全性及び食味のPR、連携団体による地域活力再生のための課題解決に向けた実践活動と情報発信、魅力の発信・正確な安全性の情報発信等のPR活動を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

農家の高齢化や後継者不足が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 水稻や野菜・果樹の生産・加工販売対策の強化
- 後継者不足
- 東日本大震災後の風評被害の払拭

体制図



課題に対する主な取組

拠点での物産展の開催

- 大学との協働により、物産展を開催。その際、市の魅力や農産物の安全性をPR

魅力・情報発信活動

- 市の特産品のPR活動を実施
- 地元農産物の安全性をPR

大学との交流連携

- 学生と連携し、本市の魅力の再発見やPR活動を実施

料理の研究支援

- 市の特産品の振興を目的とした料理教室を実施

取組の効果



- 首都圏の人に本宮市を知ってもらいきっかけづくりに寄与



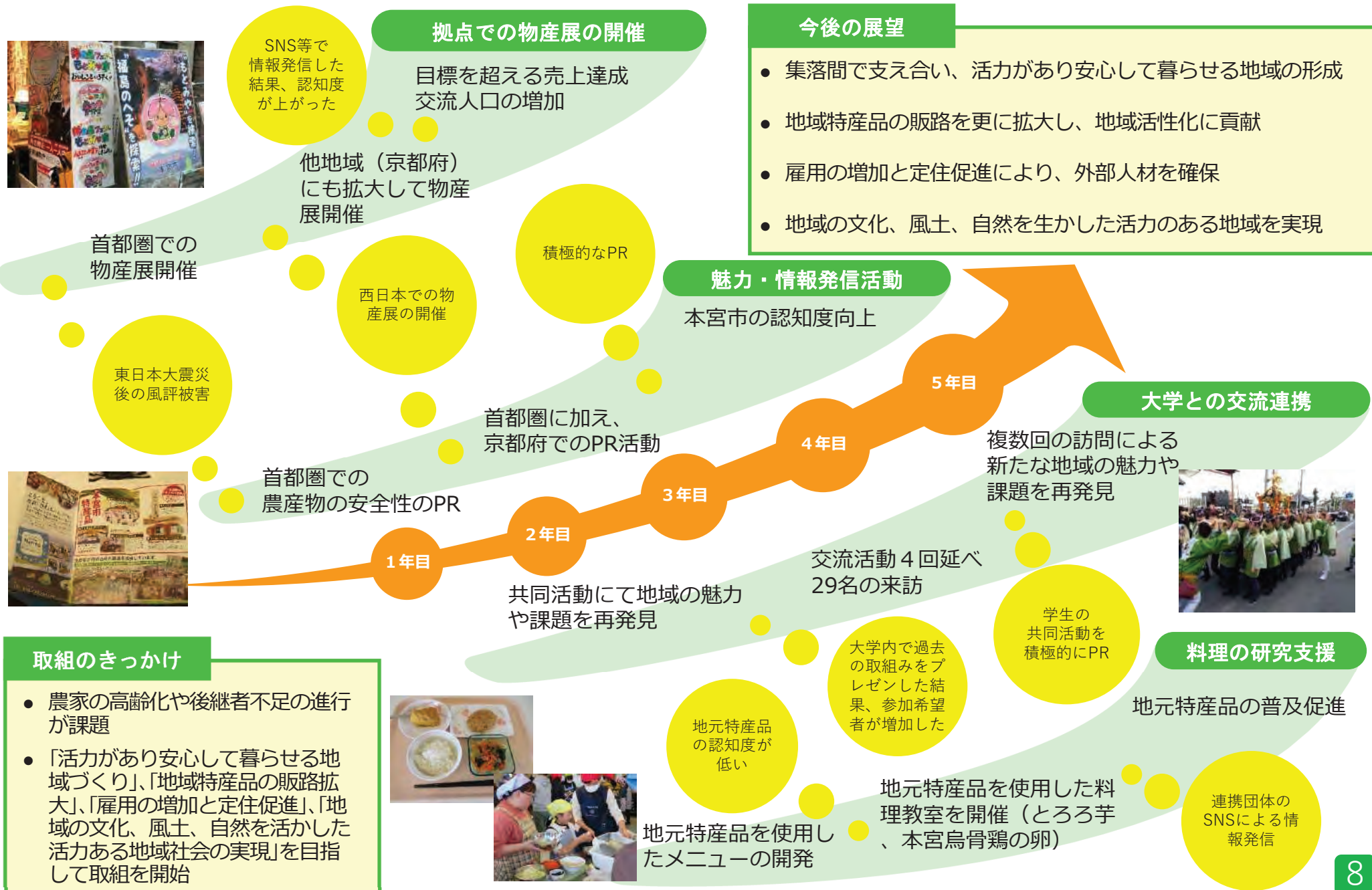
- 正確なPR活動により特産品の販売額が増加



- 学生が地域の祭りにも積極的に参加しており、地域の活性化に寄与



- 料理教室を通じて、特産品の振興に加え、市民交流が促進



群馬県川場村



取組概要

- 富士山集落の持つ自然環境や伝統・文化などの魅力を集落独自の体験活動のプログラム化や農産物6次産業化などに発展させ集落の魅力を活かした経済活動の構築を目指している。



地域の将来像づくり（先進地視察）

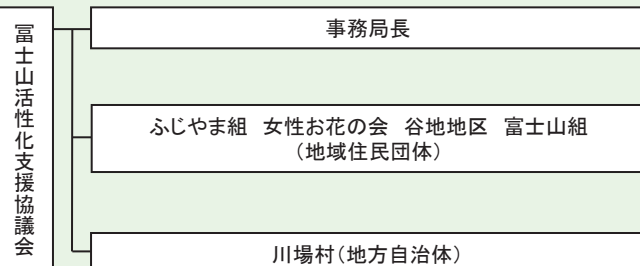


地区の現状・課題

訪問者は多いものの、人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 道の駅の周辺地域の集落活動がコミュニティ活性化につながっていない
- 地域の農業者や女性などが主体となった継続的な取り組みが十分になされていない
- 地域の集落活性化に継続的に貢献する取り組みがなされていない
- 集落全体としてのビジョンや知識、人材などが十分にそろっていない

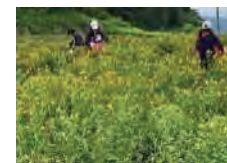
体制図



課題に対する主な取組

女性の活躍に関する取組

- 休耕田を利用した紅花の栽培や郷土料理の発掘



- 紅花を使った加工品（ジャムやお茶）を開発

若者の取組に関する活動

- 棚田や里山環境を活かした都市部若者との交流促進
- 若者向けの地域おこしに関するワークショップやイベントを開催



- 首都圏の大学との交流が促進され、サポーターが増加

交流・体験プログラム

- 連携団体により、棚田を活用した米づくり等、各種体験プログラムを実施



- 棚田を訪れる人や染め物体験やだんご汁づくり体験を通じて交流人口が増加

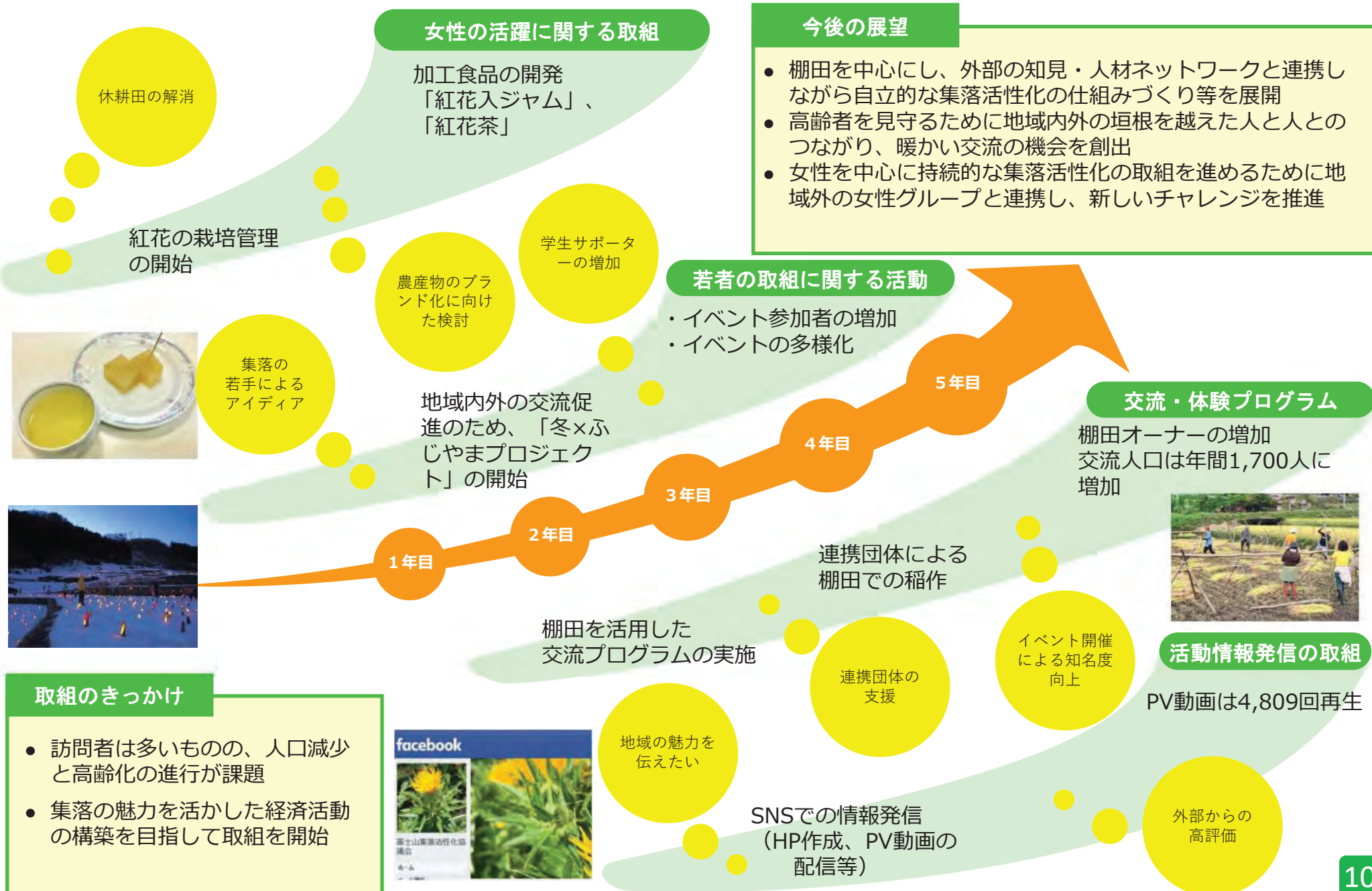
活動情報発信の取組

- 地域の魅力や活動情報をSNS等を用いて発信



- 地域の魅力を積極的にPRし、交流人口が増加

5 【取組のプロセス】



埼玉県小鹿野町

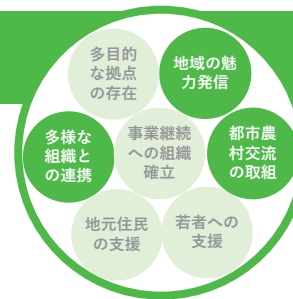


取組概要

- 複数の集落・地区が連携し、未利用資源の活用による特産品開発と共同集出荷の仕組みづくり、定年帰農サイクルの再生と担い手づくり、移住・二地域居住につながる都市と農村の交流の促進等に取り組む地域連携型6次産業化を推進している。



地域の将来像づくり（先進地視察）

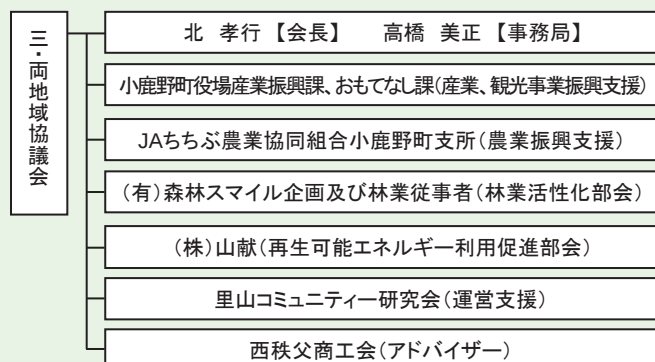


地区の現状・課題

約9割を山林・原野が占め、経営規模が小さく、高齢化とともに離農が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 農業所得の低迷・不安定により兼業化や離農が進み、高齢者が地域の農業を支えざるをえず、遊休農地が増加傾向
- 林業についても、木材需要の減退、価格の低迷、林業労働力の減少、高齢化により経営意欲が低迷

体制図



課題に対する主な取組

観光事業連携

- 休眠中のホテルを活用したゲストハウス事業性調査を実施
- 三・両地域の観光スポット化



取組の効果

- ゲストハウスを開業
- 三・両地域観光ガイドブックを作成、芋堀体験イベント開催

農産物6次産業化

- これまで廃棄していたブドウの皮等を活用した新商品の開発



- ブドウの皮パウダー入りプリンを製造し商品化

地元農産物販売に向けた取組

- 首都圏向け産直販売体制の試行と事業性調査を実施



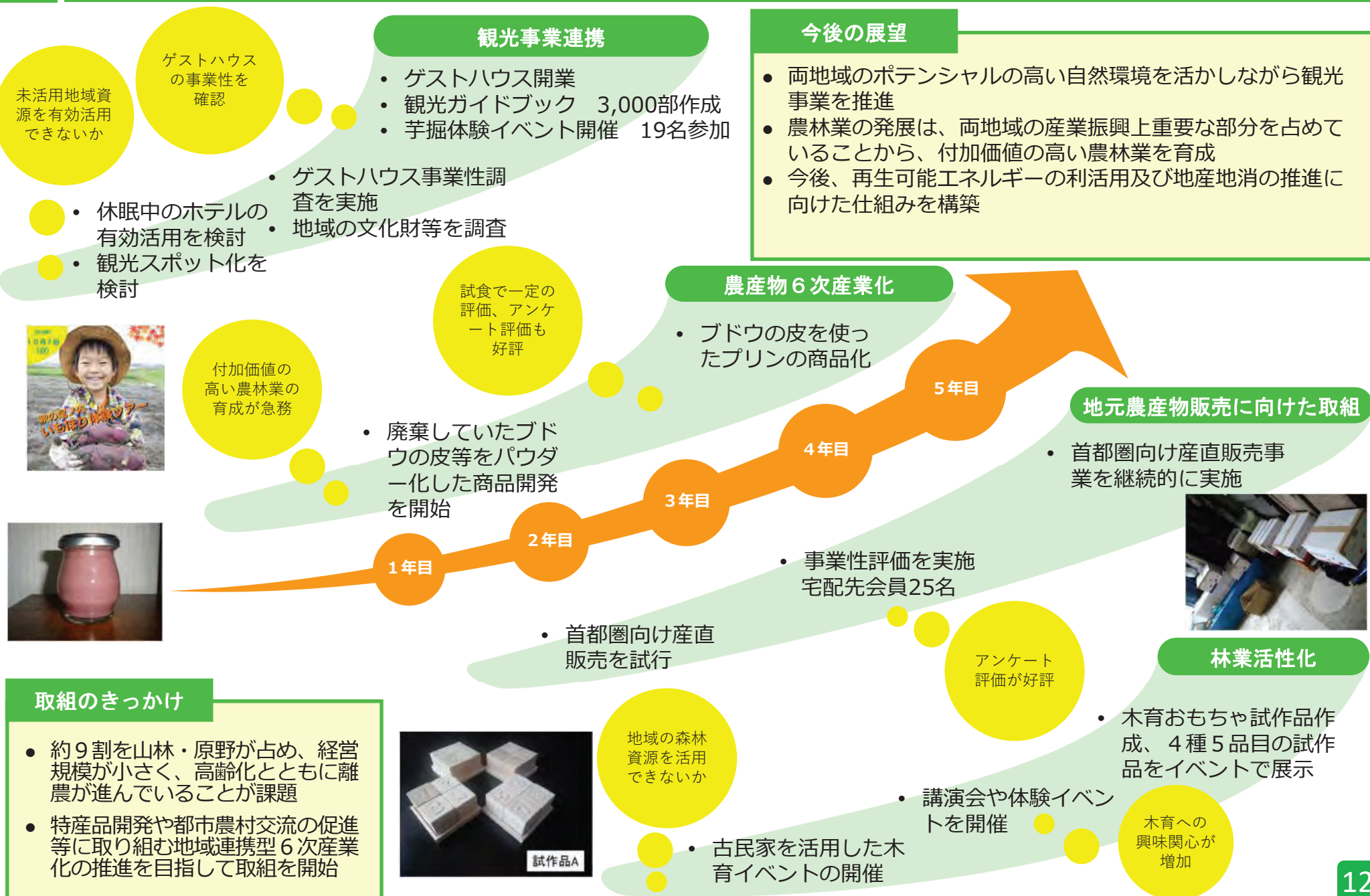
- 首都圏に向けた産直販売事業を継続的に実施

林業活性化

- 古民家を活用した木育イベントの開催



- 木育体験イベントの開催や木のおもちゃの試作品を作成





新潟県上越市

取組概要

- 中山間地域等直接支払制度において旧小学校区内の集落が連携して広域協定を締結しており、策定した地域の将来ビジョンに基づき、集落営農組織等を活用した集落間のネットワーク化により、地域の維持・活性化を図っている。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

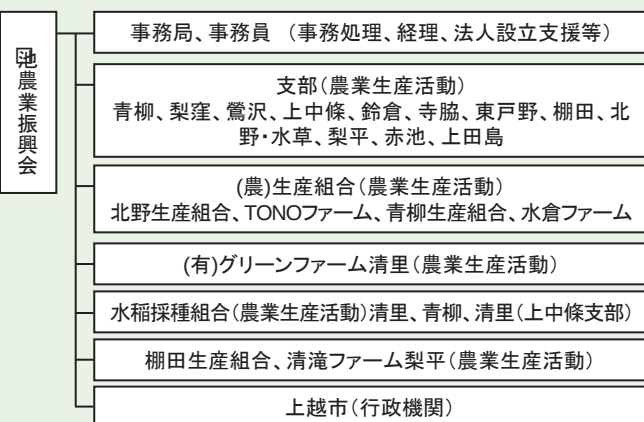


地区の現状・課題

過疎化と農業従事者の高齢化が進んでおり以下の課題解決が求められている状況

- 現有する5つの農業法人では離農面積をカバーできず、組織化された新たな担い手が必要
- 地域の維持に向け、地域住民の要望を把握し、生活を支える取組が必要

体制図



課題に対する主な取組

農産物の販売拡大

- 農産加工品の販売促進支援や庭先集荷サービス、宅配販売を実施



取組の効果

- 事業の取組により安定的な出荷体制が整い複合営農の道すじができた

都市交流の促進

- 地域内での体験交流ツアーや都市部の市民まつりに参加



- 地域資源を活用したイベントにより交流人口が増加

担い手の体制づくり

- 農業後継者の確保・育成
- 法人間・集落間の連携強化
- 農業経営体の法人化に向けた取組を実施



- 清里スマート農業研究会の発足
- 女性部会の発足
- 2経営体が法人化

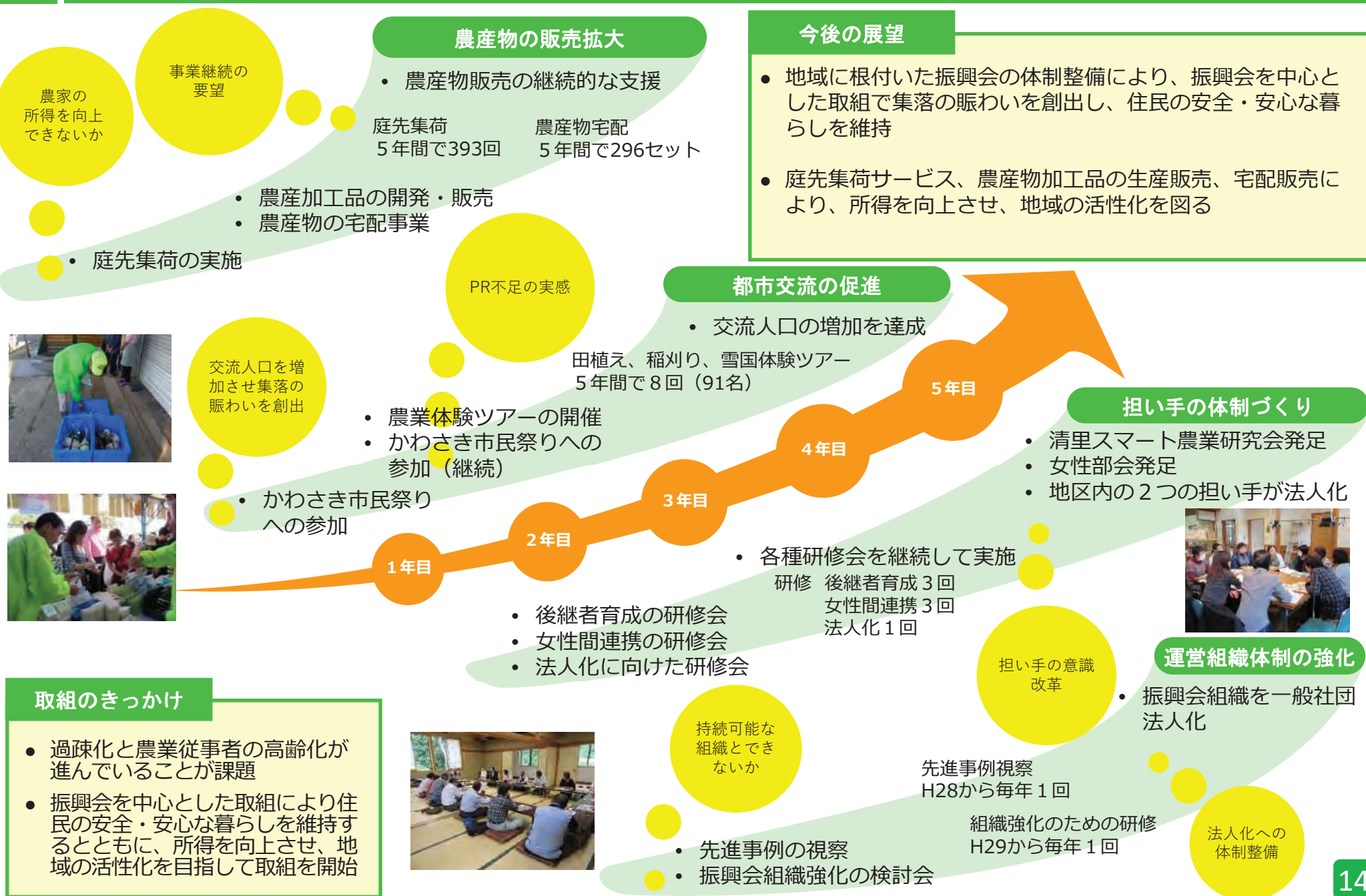
運営組織体制の強化

- 振興会の組織体制の強化を目指し、先進地の視察や勉強会を実施



- 振興会を一般社団法人として事業の継続性を図った

7 【取組のプロセス】





取組概要

- 人口減少、高齢化が進行し、集落機能の維持や営農活動の継続が難しくなっていることから、地域を維持発展させるための将来ビジョンを作成している。この将来ビジョンに基づき活動し、若者の定住を促進すると共に地域に住んでいる人々も元気になる、活力ある地域を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

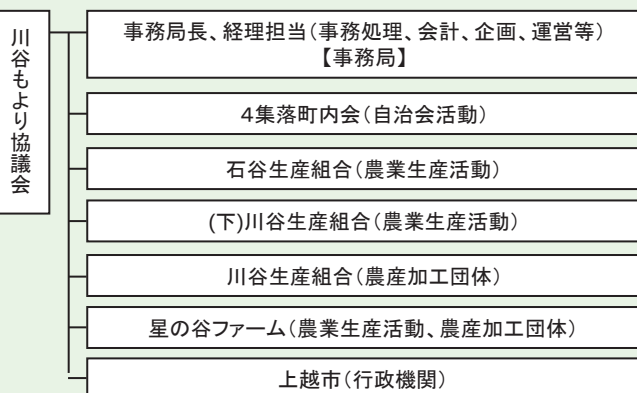


地区の現状・課題

高齢化が進み集落機能の維持や耕作の継続等が困難となっており、以下の課題解決が求められている状況

- 地区の行事・集落機能の維持が困難
- 獣害発生が耕作意欲の低下に拍車
- 若者への経営移譲、設備の増強、販路の拡大
- 直売所までの距離が遠い

体制図



課題に対する主な取組

暮らし安心事業

- 送迎サービスや食材の宅配サービスを実施



取組の効果

- 気軽にサービスを利用できる習慣が定着（令和元年度利用率86%）

基幹事業

- 農道水路の維持や獣害対策など農村の維持に係る対策を実施
- 移住の受け入れ体制づくり



- 地域に水路・農道を守る意識が定着
- 獣害被害が低減
- 1組が定住

開拓事業

- 野菜の直売の実施、加工品の販売
- 出荷農家と集荷係とで構成するチームをそのまま集荷組織として組織化



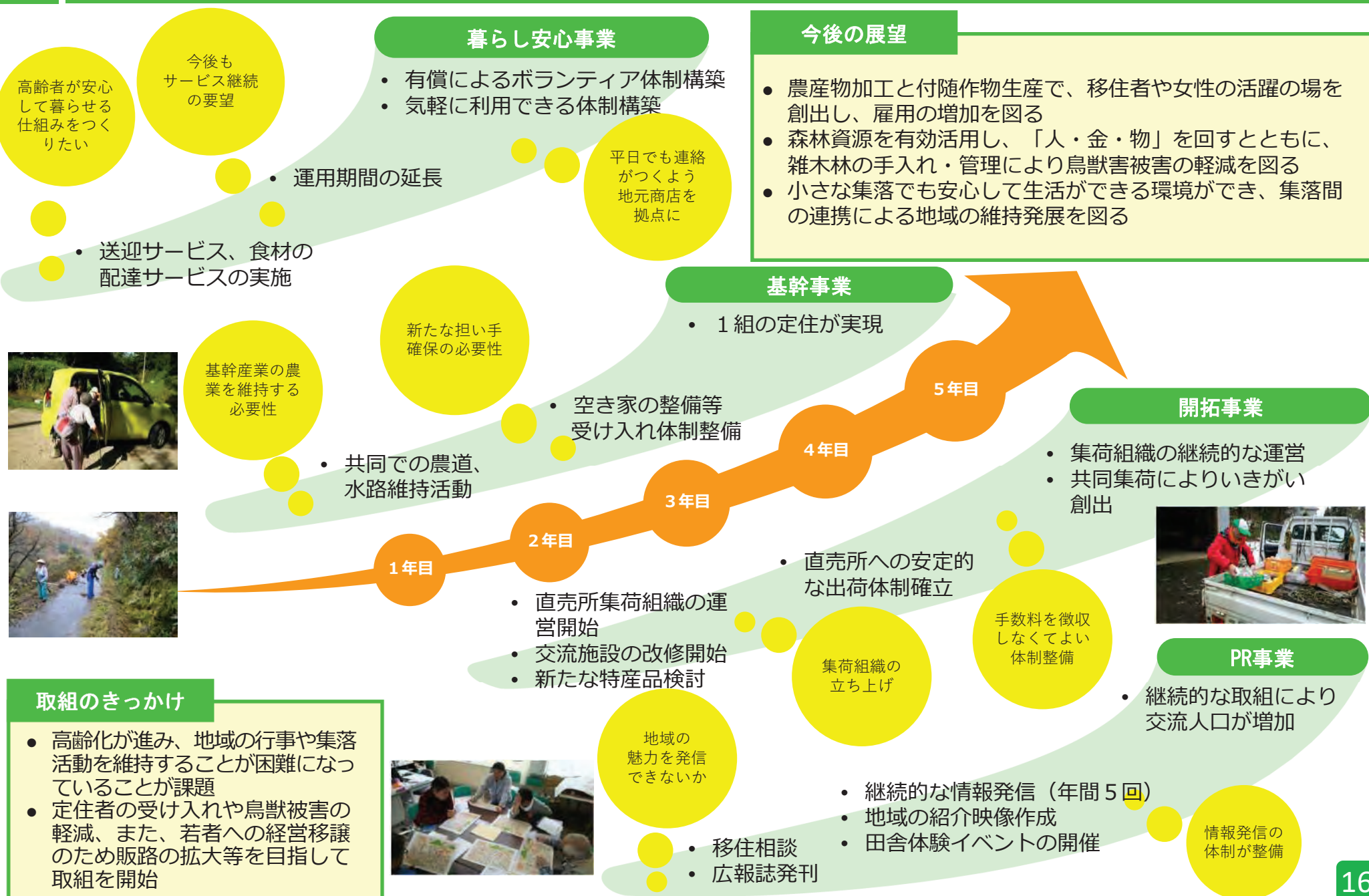
- 4年間で新たに8軒の農家が直売所へ出荷。
- 運営経費は、中山間地域等直接支払等を活用

PR事業

- SNS等を活用した情報発信
- 地域の広報誌の継続発刊
- 田舎体験イベントを企画、実施



- 継続した情報発信やイベント開催で交流人口が増加





取組概要

- 集落維持活動や農地保全などを含めた地域活動は、さまざまな状況の変化により従来の方法ではその存続が難しい現状にある。
- 各種情報をデータベースとして活用しながら、地域の将来像を住民が共有し課題解決に向かって持続性の高い体制をつくることを目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

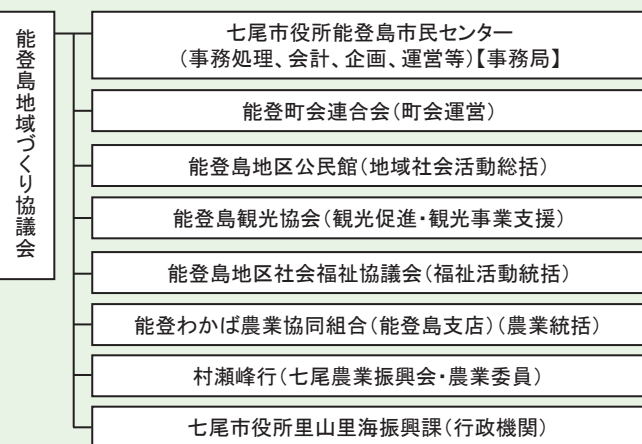


地区の現状・課題

農業従事者の減少や耕作放棄地の増加により、以下の課題解決が求められている状況

- 個々の取組の連携・調整不足の改善と継続性の担保
- ボランティア活動の有償化・ビジネス化による地域内循環の創出の必要性
- スタートアップのノウハウ・資金不足

体制図



課題に対する主な取組

データベースの作成

- 農地情報と高齢者情報の収集を基礎とした能登島センサスの実施及び管理アプリの開発



- 16種類のデータを管理する体制を整備
- データ更新アプリの開発

データベース活用（農業面）

- 獣害対策と担い手減少に対応した農地管理に活用



- 農地管理組織「のとしま豊稔会」を立ち上げ
- 対策が必要な地域を正確に把握可能

データベース活用（移住面）

- 空家情報を収集し、移住に活用できる資源を把握
- 移住後の情報提供
- 移住交流イベントの実施



- 継続的な移住相談（年15件程度）
- 取組期間中に10件の移住が成立

食資源の活用

- 高齢者福祉を見据えて地域の食資源を活用した配食を実施
- 出張カフェや地域イベントの開催



- 安定した配食利用者数の確保（年15回）
- 高齢者との交流促進

9 【取組のプロセス】

